

甲州市の人や暮らしを伝える

甲州 らいふ。

2017 vol.05 *koshulife*

わたしと甲州市。

ご自由にお持ちください

TAKE FREE

甲州市の人や暮らしを伝える

甲州 らいふ。



自然と歴史と人が息づくまち、甲州市。

Contents

- | | | | |
|----|-------------------------------|----|-----------------------------------|
| 02 | 甲州らいふについて | 22 | 甲州市の農業
ありが桃園 |
| 05 | 甲州らいふ♪ つたえ隊 | 24 | 学生がいく！
ぐるり、甲州旅 |
| 06 | Interview わたしと甲州市
古屋絵菜 | 26 | KoshuLife News |
| 10 | 甲州市を感じるお店
勝沼食堂 Papasolotte | 27 | 甲州市お役立ち情報 |
| 14 | FiND iT! KOSHU CiTY | 30 | 甲州市お祭り MAP |
| 16 | 甲州市で培った知恵を知る
センパイに学ぶ！ | 31 | Photo DIARY
甲州らいふ♪ つたえ隊が見つけた魅力 |
| 19 | 甲州市ワイナリー探訪
vol.4 くらむぼんワイン | | |



山梨県甲州市は、日本百名山で知られる大菩薩嶺をはじめとする秩父山系の自然景観に恵まれ、ぶどうやもも、ころ柿などの果樹栽培が盛んな日本でも有数の果樹産地です。

また、戦国の雄・武田信玄公の菩提寺として知られる恵林寺、ぶどう発祥伝説の国宝大善寺、江戸時代に甘草を栽培していたことから、甘草屋敷として親しまれている旧高野家住宅など、歴史と文化に彩られた地域でもあります。

東京から 100km 圏内。電車でも車でも約 90 分あれば来ることができる山梨県甲州市。

『甲州らいふ』では、甲州市のまち並みや人々の想いを伝えていきます。甲州市に来たことがある人も、今から知って来る人も、ありのままの甲州市を感じて、そこから自分ならではの「わたしと甲州市」を見つけてください。

春



4月12日 恵林寺信玄公忌「しんげんさん」
 4月中旬 大菩薩山開き「介山祭」
 4月18日 向嶽寺秋葉神社大祭「あきやさん」
 4月29日 放光寺大黒天祭り
 4月第4日曜日 甲州市ふるさと武田勝頼公まつり
 5月8日 大善寺 藤切り祭り (関東三大奇祭)
 約1300年前の行者の大蛇退治に由来します。5メートルの高さから切り落される蛇を模した縁起物の藤つるを巡る激しい奪い合いは必見です。



5月中旬 大菩薩トレッキング「新緑編」

1月14日 藤木道祖神太鼓乗り
 1月中旬 田野十二神楽 (県指定無形文化財)
 1月中旬 一之瀬高橋「春駒」 (県指定無形文化財)
 2月11日～ 4月18日 ひな飾りと桃の花まつり

早春の訪れとともに、春花が咲き誇る季節にかけて重要文化財「甘草屋敷」を彩るひな飾り。江戸・明治・大正・昭和時代のひな人形や、つるし雛がところ狭しと並ぶ様子は圧巻です。



冬



夏

6月30日 菅田天神社 禊 (みそぎ) 祭り
 茅の輪をくぐると身が清められ、暑い夏を無事に越すことができること「夏越祭り」とも言われています。
 ※形代(かたしろ) …紙を人形に切ったもの。



9月中秋の名月 塩山温泉祭り
 10月第1土曜日 甲州市 かつめまぶどうまつり

ぶどうの収穫もピークを過ぎたころ、豊作への感謝として開催されるぶどうまつり。爽やかな秋空のもと、来場者にはぶどうやワインが振舞われ多くの観光客で賑わいます。



10月上旬 大菩薩トレッキング「紅葉編」
 10月第3日曜日 甲州フルーツマラソン大会
 10月第4日曜日 甲州市およっよい祭り
 11月上旬 かつめま新酒ワインまつり
 11月上旬 武田陣中ほうとう祭り



秋



現地で取材をして
いるのは…

山梨県立大学プロジェクトチーム
「甲州らいふ♪ つたえ隊」

みなさんは甲州市といえば何を思い浮かべますか？ぶどうやワインだけをイメージする方が多いのでは？しかし、実際には他にもたくさんの魅力に溢れています。この無料情報誌「甲州らいふ」では、私たち「甲州らいふ♪つたえ隊」が発見した甲州市の魅力を発信していきます。甲州市を知っている人、知らない人。移住を考えている人、そうでない人。この情報誌を読んだ色々な人に魅力を伝えられたら嬉しいです。皆さん、これを読んでぜひ一度、甲州市に来てみてはいかがでしょうか？

公立大学法人 山梨県立大学 [http:// www.yamanashi-ken.ac.jp](http://www.yamanashi-ken.ac.jp)

発行元：甲州市役所 政策秘書課

制作／取材サポート：BEEK DESIGN

2013年に放送されたNHKの大河ドラマ「八重の桜」のタイトルバックを描いたことで有名な甲州市大和出身の染色作家、古屋絵菜さん。作家の年齢層が高いうけつ染めの世界で、少しでも多くの人に染色やろうけつ染めを知ってもらおうと活動しています。そんな古屋さんに作品への思いやアーティストとしての覚悟、甲州市で生まれ育ったからこそ受けた影響などについてお聞きしました。



望月 古屋さんはなぜろうけつ染めの染色作家という道を選び、甲州市で制作活動を行っているんですか？

古屋 もともと私の母が同じろうけつ染めの染物作家だったので、小さい頃から身近に美術がありました。それから絵を書く事も好きでした。大学に進学する頃、最初は日本画をやろうとしたんですが、日本画を勉強したところで、就職先がないと親に反対されました。なので武蔵野美術大学の工芸工業デザイン科テキスタイル専攻に進みました。それで絵を描くことに近くて、手で作品を作る染色の道、しかもろうけつ染めを選びました。今考えると母の影響を強く受けていたんだな、と思いますね。大学卒業後は大学院、研究室勤務と進んで、研究室を出たあと一年間東京で制作活動をして、その後上海に留学しました。上海から帰ってきてても東京に家がなかったので山梨に戻ってきました。最初東京に出たときは甲州市に戻るつもりはなかったんですが、住んでみたらいいなと思って(笑)。

佐塚 それで今も甲州市に住んでいるんですね。古屋さんの作品と聞くとやはり大河ドラマ「八重の桜」のタイトルバックが一番最初に出てきます。新島八重さんにどういったイメージを沿わせて作品を作られたんですか？

古屋 私が作品を作るときに考えたキーワードは、「女性」、「新しいものを生み出してきた人・新しい概念を変えてきた人」「すごく力強く、儼い」という3つです。あと、東北の復興支援の一環と言われていたんですよ。「テーマに入れなくてもいい」と言われてたんですけど、やっぱりそこは考えずにはいられなくて。出来上がった作品はほぼ黒で染まっているんですが、最初は黒に染める予定がなかったんですよ。最初は全体的に白くて消えていきそうなものを作っていたんですが、染めている途中でそんなに明るいトーンのものを描くのは違うなって思って。だから途中で背景の色を全部変えたんです。追悼の意を込めて、真っ黒にしました。

大塚 明るいトーンのものが違うなと思ったのはなぜですか？

古屋 やっぱそんなに軽々しく考えられることでもないし、黒って高貴な色でもあるんですけどもちろん死の色もあるので、そう考えた時にこれは白ではいけないなと思ったんです。だから一気に黒にしました。花もピンクとかは一切



使っていない、黒の染料だけで染めています。あんまり色のあるものを使おうと思わなかったです。その復興支援という一言があったからそうなったんだろうと思います。

佐塚 作品自体の大きさはどのくらいなのですか？

古屋 横が8mで縦が2.3mです。力強さというのを表現するには実寸くらいのものでないとだめだと思ったんです。小さいものを作っても本物には勝てないし。大変なんですけどね、大きいと。腱鞘炎になりました(笑)。その当時は大学に勤めていたので学生が帰ったあとに、工房を借りて一年間制作活動をしていました。

望月 八重の桜のお仕事の後に何か環境の変化はありましたか？

古屋 大河ドラマ、NHKはすごいなって思いました。自分のやっていることや、ろうけつ染めのことをいろいろな人に見てもらう機会は本当に少ないんです。自分で展示会をしても来てくれる人は限られているんです。でもテレビで取り上

Interview 「わたしと甲州市。」 古屋絵菜

染色作家 古屋絵菜さん

絵も描きたい、ものも作りたいという思いから染色の道を選んだそうです。大学進学と同時に上京し、上海に留学したのちに山梨に帰ってきて作品を作っています。作品のモチーフは花で、自然の畏怖や恐怖、崇高さを描いています。

ろうけつ染め… 一定の温度に溶かした蠟を生地にしみこませる事で、その部分を防染(染まらないようにする)することにより蠟で描いた部分が染まらず、周りの部分が染まるという技法。

Reporterは…



望月勝太



佐塚玲衣



氣賀澤望



大塚郁弥



げてもらえるって何万人の人が見てくれているのでその違いは感じました。そして、地元の人がすごく応援してくれました。すごく嬉しいことです。八重の桜の作品を展示しても東京よりも山梨の方が断然みんな見に来てくれるし、メディアも取りあげてくれます。「地元こんな子がいたなんて私嬉しいわ!」って知らない方々が声をかけてくれたり(笑)。それがすごくうれしかったな。山梨で活動を続けていこうと思ったきっかけのひとつですね。

氣賀澤 さっき少し話に出ましたが、古屋さんは花を作品のモチーフに選びますよね。それはどうしてですか？

古屋 大学2年生の時の課題で描いたことがはじまりです。そのときの課題は、一通り技術は学んだから自分で自由に作品をつくるファイバーアート(繊維を使ったアートの総称)というものでした。何を描こうかなと悩んで、実家のまわりを散歩していたときに花を見つけて、単純に花っていいなって思ったことがきっかけです。そのあとも違うものをモチーフに作品をつくったりしましたが、やっぱり花がいいなって思って戻りましたね。

望月 どうして花に魅力を感じるんですか？

古屋 考えてみると、花は人間の身近にある自然物のひとつだと思うんです。小さいときから周りにあるものだし、枯れて種をまいて、花が咲いてっていう生と死を一番最初に教えてくれるものだと思います。かつ、花の中にはおしべとめしべ、つまり男性と女性が存在するものです。私は自然への畏怖や恐怖、崇高さみたいなものに興味があるから、それをストレートに表現するというより、様々な表情のある花を通して伝えていけばいいなと思ってます。

氣賀澤 モチーフにする花は散歩をして見つけたりするんですか？

古屋 そういうこともあるし、この花が描きたいっていうものがあるときには見に行くこともあります。実際見て感じて体験しないと描かないですね。

佐塚 「実際に見て感じて体験する」というのはどういうことでしょうか？

古屋 私は大学時代、五感で感じろって教わったんですね。花を見て綺麗で可愛くてっていう表面的なことももちろん大事ですが、触って、匂いを感じて、振ってみたりして音を出して聴いて、少し食べてこんな味するんだって感じることを

欠かさずやります。それで感じたことを一度イメージ画にするドローイングというものをするんです。そのあと、描写のスケッチをして、分解して、一通り花のことを自分に吸収してから本番に入るようにしています。

大塚 ろうけつ染めを選んで、自分にはこれしかない決めてしまうのは怖くなかったですか？

古屋 怖いというのとは違うかもしれないけど、アーティストになるということの覚悟は必要でした。特に大学を卒業してからは大変なので、就職して仕事をしながら作品を作る人も多いんです。でもそれも大変で時間がなくて作品が作れなくなるという話を聞いていたので、私は大学院に進んだ時点で「アーティストでやっていく」というのを親に話して許可をもらいました。すごく不安定な職業だし怖いという部分はもちろんあって、相当な覚悟が必要だったと思います。でもそこに自分が負けてしまうとダメなので、自分にはこれしかないって極力思うようにしています。少し極端かもしれないけどこれをやらなくなったら自分が存在している意味がないくらいに思っておかないといけない。そう思えたので今やっていけているんだろうな。

氣賀澤 自分の作品と甲州市には何か関わりがあったりしますか？

古屋 自然への畏怖や恐怖、崇高さは甲州市にいたから感じたというのはあったかもしれないですね。山梨の山に囲まれて、自然の中で育ったからこそ感じたのだと今甲州市に帰ってきて強く思うようになりました。自分が魅力を感じるものっていうのが根本を辿ると、結局ここに生まれて生活してたからかなとも思うし、今は甲州市の自然豊かな環境に身を置いて作品をつくるのがいいかなって思っています。

氣賀澤 最後になりますが甲州市に移住希望の方へのメッセージをお願いします。

古屋 とにかくアーティストの方に来て欲しいですね。甲州市はほんとに自然環境に恵まれているので制作に向いてますね。ただ、発表の場の数で言ったらたくさんあるわけではないですが、その分、甲州市は山梨県内を比べても東京都内にアクセスしやすいですし、日帰りも簡単にできますね。そういうわけで山梨はクリエイターが多いです。甲州市にもっとアーティストの方を誘致して欲しいくらいです(笑)。そして、アーティスト村なんかができたらいいですね。



Editor's note 編集後記

（望月）お話を聞いていく中で、古屋さんの作品は自分の日々を本当に大切に過ごしてきたからこそ出来たものなのだな、と思いました。作品はもちろん、モチーフにした花、そして表現するに至るまでの過程を大切にしていることが伝わってきました。本当にお話を聞けて良かったです。展示会に行く時を楽しみにしたいです。

（大塚）今回、アーティストの方に取材を初めてしまし

たが、甲州市がアーティスト向きな環境だったとは気づきませんでした。アーティスト村ができたら面白くなりそうだなと思いました。また、ろうけつ染めの作品も少し見せていただいたのですが、とても良かったです。今後山梨での展示会もあるそうなので行ってみたいと思います。

（氣賀澤）古屋さんの作品に甲州市での生活や自然が関わっていることが知れてとてもうれしくなりました。繊細だけど存在感のある古屋さんの作品はアートに詳しくない私でも見入ってしまうものでした。古屋さんと

古屋さんがろうけつ染めを始めるきっかけとなったお母さんの作品も見に行きたいと思います。

（佐塚）最初、ろうけつ染めというものがどういったものなのかすら知らない私でしたが、取材を通してろうけつ染めの魅力や古屋さんご自身の魅力を存分に感じることができました。絵を描くことと手でものをつくるのが好きだった古屋さんにとってろうけつ染めの染色作家というものがまさに天職なのだなとお話を聞いて思いました。今度ぜひ展示会に足を運び、古屋さんの作品をゆっくり見たいです。

The shop which feels KOSHU. — 甲州市を感じるお店 —

勝沼食堂 Papasolotte

勝沼ぶどう郷駅から程なく歩いたところにひっそりと佇む「勝沼食堂 Papasolotte (パパスロッテ)」。地域の人々だけでなく、市外の人々からもこよなく愛されているこのお店は、訪れた人の心もお腹も満たしてくれます。今回はそんな素敵なお店のマネージャーである坂口健さんから話を伺ってきました。坂口さんは、日本でも有数のワインアドバイザーで「パパスロッテ」のオーナーの長谷部賢さんのお弟子さんでもあります。

Reporterは…



気賀澤 望



大塚 郁弥



青山 柚葉



土屋 玲乃



「ビストロ」でも「レストラン」でもなく、「食堂」であること。

気賀澤 お店の名前の由来を教えてください。

坂口 うちのオーナーも僕も2人とも子どもがいて、「パパが揃ってやっている」ということでパパスロッテというんです。造語ですね。

気賀澤 お店のコンセプトや特徴を教えてください。

坂口 お店の一番のコンセプトはワインを飲みながら山梨の食材をフランス料理の中で召し上がっていただくということです。僕やうちのシェフが勉強してきたのはフランス料理なんです。でもフランス料理って皆さん何回くらい食べたことありますか？ あまりないと思います。フランス料理というよりはすごく敷居が高い、高級なんじゃないかっていうイメージがあると思うんですよ。なのでそれを「ワイン食堂」という形で少しでも親しみが持てるように、そのようなコンセプトにしています。

大塚 ワイン選びのこだわりは何ですか。

坂口 食事との相性ですね。基本的に安かろうが高かろうが、まずいワインはないと考えています。山梨のワインは山梨のワイン、海外のワインは海外のワインの良さがあります。例え

ばメルローっていうぶどうの品種ひとつとっても、フランス、アメリカ、日本それぞれテロワール(ぶどうの自然環境)が違うのでそれぞれワインの味が違うんです。だから、このワインにはこの料理が合う合わないっていう差がすごく大きいんですよ。ワインってわがままなんです(笑)。でも、ピタッと料理とワインが合うとすごく感動するんですよ。

大塚 ちなみに、何種類くらいのワインを取りそろえていらっしゃるんですか。

坂口 常時取り揃えているワインは100種類前後ですかね。人気のものはすぐなくなる時があります。ただ、ワインの入れ替わりが激しいので固定したリストはなく、現物を持って行って「どちらになさいますか」とお客様に選んでもらいます。

大塚 料理のメニューのこだわりは何ですか。

坂口 おすすめはパテ・ド・カンパーニュなどお肉料理が得意です。勝沼ぶどう郷駅のすぐ近くにあるので県外からの観光客が大体70%だから、山梨のものを食べてもらいたくて肉や野菜中心のメニューです。だから基本的にはお魚のメ

勝沼食堂 Papasolotte
●山梨県甲州市勝沼町菱山3577-6
営業時間 11:00~14:00、17:00~21:00
火曜定休 TEL: 0553-39-8763
<http://www.hasebeken.jp/papasolotte.htm>



ニューがありま
せん。例えば静
岡の伊豆の旅
館に行ったと
します。その旅
館での夕食は、た
のしみのひとつな
はず。そこで、さて
今日は何を食べられ
るかな～って思ってい
たら「山梨です」なんて言われた
らがっかりするでしょ。せっかく海

の近くののに。だからこそ、うちではなるべく山梨のものを
食べてもらいたくて食材も80%は山梨で採れたものでまか
なっています。もちろん、予約の時にどうしてもお魚をとい
うのであれば対応しますよ。

大塚 お客さんから注文を受ける際にこだわっていること
はありますか。

坂口 屋はどうしてもお客さんの人数が来るので、ある程度
形が決まっています。定食のようになっています。それでもメ
ニューを見てもらうとパスタはトマトペースカオイルペー



スの2種というふうに書いていますが、その日の野菜に合
わせてご提供しています。それから夜はお客さんのご要望
に応じてお出しするときもありますね。例えば、予算は1人
4000円もいただけるとお腹がいっぱいどころかはちきれ
るくらいですよ。他にもコースで料理にすべてじゃがいもを
使ってくれなんてのもありましたし、カップルで来られたお
客さんは、予約の時彼女さんが、彼氏の誕生日で彼氏がお肉
好きだから多くお肉をってことで1キロ近くのステーキを
出した時もありました。大概のことは言っていれば対応
しますよ。

青山 このお店はいつから始められたんですか。

坂口 2011年9月1日がオープンで今6年目です。



青山 なぜ勝沼でお店をやろうと思ったんですか。

坂口 うちのオーナーであり、ぼくがソムリエをとったとき
の師匠でもある長谷部がワインアドバイザーで2013年に日
本一になっているんです。日本一のワインアドバイザーの彼
がお店を開くなら、出身地の山梨にある日本有数のワインの
産地勝沼で、という想いがあったんだと思います。地元をつ
ながりが生かせるところはいいところですよ。また、山梨はす
ごく食材が豊富なんですよ。いい食材が安く手に入る
のでそこはお客さんにすごく還元できると思います。それと
夜景がきれいで甲府盆地が一望できます。勝沼のゆっくりと
した時間の流れる中でお店ができることもいいところですよ。
土屋 以前海外に何年かいた時期があったそうですが、海外
と比べて、勝沼が「いいな」と思うことはありますか。

坂口 ひとは水がいいと思います。勝沼ってすごく水がお
いしいんです。あとは、空気ですね。勝沼という地域はすごく
のんびりしてるんですよ。それこそ、都内では味わえない時
間の流れだったりとか、風景だったりとか、すごく癒やされ
るんですよ。仕事をしても生活をしていても、ここはすごく
ほっとする場所なんですよ。あと、温泉がいっぱいあり
ます(笑)。

土屋 このお店が、甲州市のためにどんな役割をはたせたら
いいと思いますか。

坂口 情報発信基地になりたいです。勝沼の駅に近いから、



ワイナリーに行く前に、例えば立ち寄ってもらって「こんな
ワインが好きなんだけど、どここのワイナリーが作ってますか」

であったりとか、「こんなところって

みたいんだけど、どこかありま

すか」とか、聞いてくれば

やっぱり甲州市は僕の地

元でもあるんで、ある程

度コアな情報をお教え

できると思います。他

にも例えば「鎌倉中期の

仏像が見れるお寺どこで

すか」って言われたら、大

善寺さんの十二神将とかそ

んな感じだし、「不動明王像で

有名なところありますか」って言われ

たら恵林寺の武田信玄像が不動明王像だし、「重要文化財に
なっている仏像がほかにありますか」って言われたら放光
寺の愛染明王もあるし、聞いてもらえればだいたいことは
お答えできます。

土屋 お料理関係とか、お食事関係とかにこだわらないで、
観光関係とか何でも分かってる情報は提供して下さると
いう感じですか？

坂口 こっちの分かることは、何でも教えたいと思うから、
単純にワイン1杯とちょっとおつまみだけでもかまわない
から「～に行きたい」って来てくれたら、甲州市のためにな



るんであれば喜んで協力させていただきます。ワイナリーのこ
とでもそうですし、食べるもののことでもそうです。結局、
うちらみたいな飲食店っていうのは自分のところの一人勝
ちっていうのは、基本的にはあり得ないですから。自分たち
だけじゃお店は成り立たないです。まわりに支えられてのお
店です。だから逆に、わたしたちからできることは何でもさ
せてもらいたいと思います。

土屋 最後に、甲州市へ移住を考えている人へのメッセージ
をお願いします。

坂口 とても生活がしやすいところです。まずは、来て、少し
でもいいので、生活をしてみてください。そして、人とか、空
気とか、食べ物とか、自然とか、いろんなものを感じてみてく
ださい。で、好きになったらいつか僕たちとパーティーでも
しましょう。とにかく甲州市に来て、甲州市を感じてほしい
です。甲州市を感じてもらって、それがあなたの肌に合うよ
うだったら、一緒に生活しませんかって言いたいですね。



Editor's note 編集後記

(大塚) 今回、取材ではババソロッテのこだわりがす
ごいと思いましたが、それ以上に坂口さんの人柄が
素敵でした。その仕事に対する情熱は、どんな仕事に
も通ずると思いました。ババソロッテはお店も素敵で
すが、人の良さがババソロッテの一番の売りだなと私

は思いました。

(氣賀澤) きれいな景色を見ながらのランチはとても
気持ちが良かったです。坂口さんがワインや料理を通
して甲州市や勝沼の魅力を伝える姿に胸が熱くなりま
した。「甲州市のためになるのなら何でもする」という
地元への気持ちの強さを見習いたいと思いました。ま
たお店に行ったら坂口さんとお話したいです！

(青山) おいしく、楽しみつ、取材をすることができま
した。気軽に食べに行くことができる雰囲気や地域の方
からもとても愛されているお店だということがお話
を通してわかりました。

(土屋) 初めて行ったのにもかかわらず、ほっとできる
ような雰囲気のあるお店でした。今度はプライベート
でご飯を食べに行きたいです！

甲州市の暮らしの中に根付いた、歴史や文化、自然を見つけよう！

FIND IT! KOSHU CITY

NATURE

自然

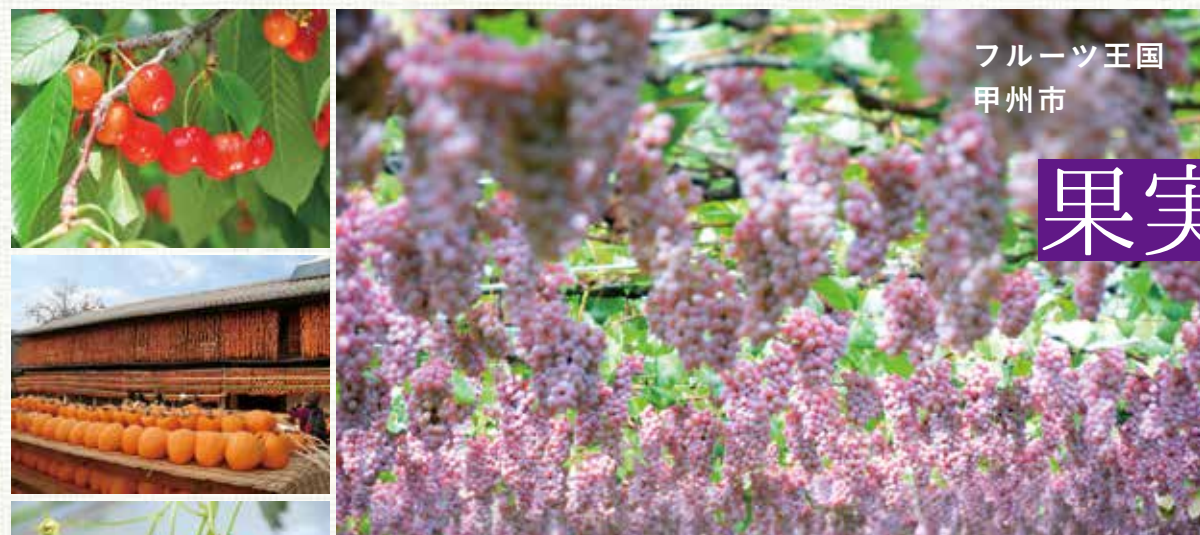
どの季節でも
自然が美しい場所



総面積の約8割を山林が占める甲州市は、中里介山の長編小説「大菩薩峠」で有名な大菩薩をはじめ、大蔵高丸などの山々を有しています。それぞれの頂上から望む富士山や南アルプス等の絶景は、年間を通じて多くの登山客を魅了しています。また、ツツジの群生地である三窪高原や、春から秋にかけて多彩な花が咲き誇る湯の沢峠、四季折々に表情を楽しめる日川渓谷「竜門峡」など、豊かな自然に囲まれています。さらに、ぶどうやもも等の果樹園が里山に広がる独特の風景は、個性豊かな農村景観として親しまれています。

フルーツ王国
甲州市

果実



甲州市は「フルーツ王国やまなし」を代表する果物の生産地です。いちご、さくらんぼ、もも、すもも、ぶどう、柿などの果樹栽培を中心とした農業が基幹産業であり、季節に応じたフルーツ狩りが楽しめる日本有数の果樹産地です。また、日本のワイン産業発祥地・甲州市産のワイン品質の高さは国内外で高く評価されていて、その優しい香りと味わいは多くのワイン愛好家を魅了しています。市内には150ヶ所を超える観光農園や、約40ヶ所のワイナリーがあり、様々な味覚を楽しみに毎年多くの観光客が訪れています。

FRUIT

歴史文化

甲州市には、甲斐の国を治めた武田家ゆかりの神社仏閣が多数存在しています。信玄公の菩提寺である恵林寺をはじめ、武田勝頼公の菩提寺の景德院、日本最古の「日の丸の御旗」などを有する雲峰寺など、すべてが貴重な歴史文化財であり、武田家と甲州市のゆかり深さを感じることができます。また、国内のワイン産業にまつわる産業遺産等なども数多く点在し、甲州街道など悠久の時とともに、いにしへの文化と先人たちの足跡が今に残る歴史に彩られたまちです。

知れば知るほど
深みのあるまち



HISTORY & CULTURE



暮らし

暮らしやすさは
支え合う心から



「地域ぐるみで支え合う心」が暮らしのなかに息づいている甲州市。子育て中のお母さんやお父さんには、充実した子育て支援サービス。高齢のみなさんには、健康で快適に暮らす生活支援。若者の仲間が楽しく交流できる環境づくりなど、誰もが満足できる「安心」があります。「甲州市で子どもを産み、育てる」「甲州市に住んでよかった」などなど、大きな笑顔があふれ、活力に満ちた「暮らし」が甲州市にはあります。

LIFESTYLE

甲州市で培った知恵を知る

センプイに学ぶ!

廣瀬かほるさん
年齢：68歳
在住：福生里地区
甲州市でフリットバスの会をしている。

廣瀬 博さん
年齢：69歳
在住：福生里地区
地区の区長代理を務める。

中村 今朝継さん
年齢：64歳
在住：上条地区
地区の区長代理や地区公民館の管理をしている。

中村昭美さん
年齢：62歳
在住：上条地区
普段は老人施設の厨房でお仕事をしています。

「センプイに学ぶ！」は甲州市に住む「センプイ」たちから、甲州市での思い出や長く生きている方だからこそ見える甲州市の魅力、今の若い人をどう見ておられるのかについて学ぶという企画です。今回は、甲州市の玉宮にお住まいの廣瀬夫妻と神金の上条地区にお住まいの中村夫妻の4人の「センプイ」に座談会形式でお話を伺いました。

— みなさんが子供の頃の甲州市に関する思い出は何かありますか。

博 甲州市はもともと、塩山市、勝沼町、大和村が平成17年に合併して出来ました。さらに、塩山市は私が小学生だった昭和29年に当時の塩山町が周辺の村を編入してできました。塩山市に合併する前は、私の住んでいたところは玉宮村と呼ばれる村でした。当時、玉宮村周辺では養蚕が盛んでした。養蚕をしていた家は、上条地区を除いて旧玉宮村には現在ほとんど残っていませんがね。私が成人する頃には、周辺の農家は養蚕をやめて桃やぶどうを生産するようになりました。最近は専業農家というよりは会社勤めをする人が増えてきましたね。私自身は40年ほど甲州市を離れていて、10年程前にここに戻ってきました。甲州市は本当に自然豊かですね。富士山が見えて、四

季折々に変化する景色を見せてくれる山々に囲まれています。

昭美 南アルプスや白根三山などがパーっと全一望できていいですよ。

かほる 何十年ぶりに戻ってきても変わってない。甲州市は素敵な自然に囲まれて、都心から90分でこんな素敵な場所に來られますから、素晴らしいですよ。小さい子が甲州市に來ると空気がすごく美味しいというんですよ。

今朝継 私たちの住む上条地区も山に囲まれていて、よくここに來た県外の子どもたちが「ヤッホー」と言うんだけど、それぐらい見晴らしがいいんです。あと、建物について上条地区は昔と今であまり変わってないですね。

博 私たちの住む福生里地区には少ないのですが、中村夫妻の住む上条地区は養蚕をしていた伝統的な家屋が数多く残っています。2015年には、重伝建

(重要伝統的建造物群保存地区)に指定されました。おかげで外国のメディアの方も、日本の伝統的家屋を取材しようと上条地区に來ましたね。

今朝継 指定されたおかげで、民家情報館は建物保存のための予算をいただいて、そのお金で茅葺き屋根の茅を交換をしました。

昭美 あと、上条地区には木造で高さは2.3メートルほどある木食白道の観

音像もありますよ。

博 この家(廣瀬夫妻の自宅)も、もともと養蚕に合わせた建物のづくりをした古民家です。したがって、風通しが良すぎるので寒さは厳しいですよ。夏はいいんですけど(笑)。ちなみになんでこんなにこの家の柱の木が黒いかわかりますか？これは養蚕をしていたおかげなんですよ。寒くなると部屋を暖かくしておかないとお蚕(かいこ)さん



がまゆを作らない。だから、薪を燃やして暖かくするんですが、薪を燃やすので煙がたくさん出ます。それで、木がいぶされて黒くなるんですよ。こうしていぶされた木材は虫が寄り付かなくなるんですよ。お蚕さんと共存してきた訳です。

— “お蚕さん”とは？

かほる 子どものことを『ぼこ』と言っていました。『ぼこ』を大切にすることによって蚕のことを『おぼこさん』と言ったり、『お蚕さん』と私たちの世代は呼んでいました。

今朝継 子供の頃はお蚕さんの部屋に寝ていたよ。お蚕さんの葉を食べる音がシャリシャリになって雨みたいだね。それを聞きながら寝ていました。ただ、お蚕さんが卵から成長するのに合わせて、徐々にお蚕さんを飼うスペースを広げなければなくなるので、だんだん自分たちの寝る場所が狭くなるなんてこともありました。

かほる 子供も養蚕のお手伝いがあったて毎朝、畑から桑の葉をとってきたりしましたね。

昭美 お蚕さんがまゆを作るとき、子供はおぼこひきという仕事も手伝いましたよ。

今朝継 ちなみに、おぼこひきとは、お蚕さんを入れる小さな部屋みたいな回転まぶしに入れて、まゆを作らせることを言うんです。

昭美 できたまゆは一度熱風で乾燥させて、蛾にならないようにしてから、長野県の製糸工場に運ばれました。1つのまゆから3、4キロメートル分の絹糸ができるそうですよ。

— そうした養蚕農家など、昔の暮らしは裕福だったのですか？

博 裕福とは言えなかったけど。生活はできないわけじゃなかった。

昭美 年に3～4回、お蚕さんを育てて、そのまゆから生糸をとっていました。冬場はお蚕さんを飼えないので、男の人は土方の仕事などをしていました。食べ物とは自給自足が基本でした。

博 食べ物といえばお刺身も祭りの時



とか年に1回か2回ぐらいしか食べられなかった。だから、昔と比べて今の裕福度はかなり高いと思うよ。

— ほかに子供の頃にあった、甲州市での思い出話がありますか？

博 隣り村に行くときは歩いて峠越えをすることが多かったです。今でこそ車で回りをしますが、当時は峠越えの細い道をひたすら歩いて行きました。峠は片道1時間ぐらいでした。

今朝継 毎日学校への往復に、2時間ぐらい歩いたけど、苦にはならなかったです。

博 私たちの時はそれが普通でした。

今朝継 車とはいうと、私たちが小学生の頃、車を持っていたのはお店の人ぐらいでした。ガタゴト道で、おまけに車の性能は今と違って良くなく、ゆっくり走っていたから、お店の人が運転している車の後ろにこっそりしがみついて遊んで楽しかったな。

博 我々の頃と今とは生活パターンが異なっていました。今は時間のスケジュールなどが分刻みですが、昔は時間刻みだった。例えば集合も大体1時間ぐらいとかそんな生活で、本当にのんびりしていましたね。それからもう一つ、甲州市はすごいよ。山梨県にある国宝の5つうち3つがあるからね。
今朝継 大善寺、菅田神社と向獄寺にあるね。あとは雲峰寺に日本最古の日章旗もあるよ。それは破れて縫ってあるけれど。

博 甲州市は自然の環境もあるけど、歴史的環境もある。黒川金山など武田信玄の金鉱もあるし、水晶も取れる。ちなみに、玉宮の名前も水晶が取れることが由来といわれていて、ロマンがあるよ。



甲州市は歴史を紐解くといろいろあるんです。

—— 昔と比べ、今の若い人については、どう思いますか？

博 今の時代に生きている若い人には、自分の立ち位置を持って欲しいですね。あとは若い人は物を優先しがちのように思います。自然だとか文化だとか、お金に換算するのではなく自分のうおいに換算できることを大事にしたいと思っています。

昭美 インターネットが発達して外に出ない人が多い気がします。自分の足を通して学んで欲しいですね。

今朝継 農業する若者もいるなという印象です。そんなに多くはないですけどね。

かほる ここは中山間地にあるところで、高齢化が進んでいます。農業をやりたい若い人と農業ができなくなった高齢者のマッチングができれば良いですね。都会の人にとってオアシスになってくれればいいですね。

無尽』なんかもあります。

かほる 山梨県は健康長寿日本一と言われていますけど、無尽でコミュニケーションとれるからと言われたりもしていますね。

—— 最後に県外からの移住希望者にメッセージをいただけますか。

博 都心から90分でドンと日帰りで来られます。ここでぜひ一緒に生活をしませんか。果樹もあるし、歴史を楽しむこともできるし、ワインもあります。みなさんが一歩踏み出すか出さないかだと思います。

昭美 春になると桜やももの花が一面に咲きますし、温泉も多くあります。甲州市民だと300円で入れますよ。

今朝継 甲州市も探せばいろいろあります。例えば、甲州市の共撰場では、7月中頃になると出荷しない完熟ももを無料で食べられる体験もあります。土曜か日曜の午前にやっていることが多いですね。

昭美 夏の果物の時期にはぜひ食べに来てもらって、見て回って、若い人にはぜひ甲州市に住んで欲しいですね。

博 いちど甲州市にぜひ来てみろし！！（甲州弁で「来てみてください」の意味）

昭美 土を耕さずにいると畑などが荒れて、土が固くなるからぜひ農業してもらいたいですね。

博 あと、年齢が上の人と接点を持ってほしいね。世代を超えて、年配の人と若い人が交流しないと地域が活性化できないと私は思います。無尽などを使っていっぱい交流したいですね。ちなみに、無尽とは仲がいい人がグループを作り、お金を積み立てて、有事の際に、そのお金をやりくりするものでした。でも、近況だと最近の出来事について語る場として無尽があることが多いんですよ。山梨県だどこでもやっているんじゃないかな。ぜひ、若い人にも無尽に参加して欲しいですね。

今朝継 無尽には、お金を積み立てて旅行に行く『旅行無尽』だったり、積み立てたお金をもらう『とり無尽』や、困ったときにお金を工面する『お助け

Reporterは…



大塚郁弥



佐塚玲衣



土屋玲乃



鶴田有紀

Editor's note 編集後記

（大塚） 今回、甲州市に住む4人の「センパイ」にお話を伺いましたが、「センパイ」方の子供の頃と今の時代とは大きく変わるもの、変わらないものがそれぞれあるのだなと思いました。また、「今の時代がとても豊か」であるとお話を伺って強く印象に残りました。

（佐塚） みなさんの子どもの頃のお話や歴史をお聞きしましたが、楽しそうに懐かしみながら話して下さるのが印象的でした。今とは違った意味でとても豊かな生活があったのだと感じました。私もいろんなものをお金に換算するのではなく、自分自身のうまいとして換算できたらもっといろんな意味で豊かに生活していけるのではないかと思います。

（土屋） 甲州らしい史上初めての試みである座談会形式の取材ということで、最初は不安でしたが、先輩が気さくな方ばかりで、昔のエピソードや上条地区のお話などを積極的に聞かせてくださり、非常に身になる体験でした。個人的に一番印象的だったのは無尽のお話です。静岡県生まれの私はその存在すら知らなかったのですが、人間関係が希薄なこの時代に、無尽があるからこそ山梨県のコミュニティには人と人とのつながりがちゃんとあるのだと気づかされました。

（鶴田） 今回が初めてのコーナーでとても緊張しましたが、取材した皆さん優しく、初めてお会いしましたが本当の祖父母のような安心感がありました。私たちが知らない、例えば養蚕の話は教えてくれる人が周りにいないからこそとても貴重な話でした。いつか自分の祖父母にも、このような今では経験できない話を聞こうと思います。

甲州市 ワイナリー 探訪

甲州市には実に多くのワイナリーがあります。醸造家の日々の営み、この土地への想いを聞きに、学生たちと一緒に訪れました。

vol.4 くらむぼんワイン

Reporterは…



渡辺智実



氣賀澤望



佐塚玲衣



川崎かな子



くらむぼんワイン 野沢たかひこさん

株式会社くらむぼんワインの代表取締役、栽培醸造責任者であり、現在従業員4人でワインづくりを行っている。株式会社くらむぼんワインは、創業1913年。1932年に近隣のぶどう農家が集まり田中葡萄酒醸造協同組合が結成され、1962年には有限会社山梨ワイン醸造を設立。2014年に株式会社くらむぼんワインに社名変更された。「くらむぼん」の名は宮澤賢治の作品『やまなし』で蟹が話す言葉が由来である。人間と自然の共存、科学の限界、他人への思いやりを説く宮澤賢治の思想と、自然栽培にこだわる野沢さんの方針が合っていることから名づけられた。

「新しい人が来たらとりあえず一緒にワインを飲みたいですね」



佐塚 野沢さんがワインづくりを始めたきっかけを教えてください。

野沢 最初ワインづくりに関わったのは1999年からです。もともと実家のワイナリーを継ごうとは考えていなかったんです。大学は機械工学科に通っていたんですけど自分には合わないなと感じていました。そこで人生勉強を兼ねて1997年にフランスでホームステイをしながら語学学校に通いました。そのホームステイ先で地元の郷土料理と一緒にロゼワインなど地元の安いワインが出されていて、家族や友達がみんな集まって毎日一緒に食事をしていたりするんです。このようなワイン文化が根付いているフランスに行ったことで、ワインの魅力に気づきました。日本ではワイン文化がなかなかないので“気軽に飲めてその場を楽しくしてくれる”そんなワインを作りたいと思い、ワインづくりを決心しました。そこから2年間はフランスにいて、1年半位ブルゴーニュのワイン専門学校に通っていました。その後日本に帰ってから、ずっとワインづくりをしているって感じですね。

佐塚 ワインの魅力はどんなところにありますか？

野沢 ワインはビールや日本酒と違って水を一切使わないんです。ワインはその年にできたぶどうの果汁100%でつくるので、その年によってぶどうの出来も違いますし、作り手や

育つ土地によっても全く違うものができあがります。その差を楽しむことができるのがワインなんだと思います。基本的にワインは何人か集まって一緒にわいわい飲むものですし、いつも食とともにあるものだと思います。いろんなワインがあって、ワイン単体でもたくさん語ることができます。ワインがそこにあるだけでその場が楽しくなるような飲み物だと思います。川崎 そんなワインづくりの魅力を教えてください。

野沢 作り手の味がそのままワインに出るので、ワインづくりが人生そのものという感じです。ワインが思い通りにできることってめったになくてすごく難しいんです。でも、自分の生き方や考えていることをそのまま表現して、それがワインになるのが楽しみです。自分がワインを作りあげていているっていうのではなくて、最初にぶどうがあって、それがワインになっていくのを手助けするのが作り手の役割だと思っています。その過程の中で自分の思い描くワインができあがっていくことにすごく充実感があります。このようにワインを作る喜びもあるんですけど、実際に飲んでもらっておいしいって言ってもらえるのが一番うれしいです。

氣賀澤 ワインづくりへのこだわりはどんなところにありますか？

野沢 うちでは自然派という方向性をとっています。自社畑では農薬を極限まで控えた栽培をしたり、自社畑のワインのぶどうの皮についている天然酵母でそのまま発酵させたりしています。畑の特徴や人が関わって土地の風味が出ることを感じられるワインを作りたいと思い、行きついたところが自然栽培で、さらに、発酵力が弱く難しい点もありますが天然酵母で発酵させることで、その畑にしかない風味や気候風土の特徴が出て、ぶどうの自然な味わいがそのまま生きたワインができあがります。この自然派というところに1番力を入れています。自社畑のぶどうが3割であとは農家

の方と直接顔の見えるやり取りをして購入していますが、甲州やペーリーAを中心に普段の食事に合ってぶどうの風味が生きたワインづくりにこだわっていますね。

川崎 くらむぼんワインのここが自慢だというのを教えてください。

野沢 自社ぶどうの栽培から、天然酵母を使っでの発酵など一貫して自然派ワインを作っていくということに力を入れているのはあまり見られないことだと思うのでその点が自慢で



すね。

氣賀澤 ワインを作るうえで大変なことはありますか？

野沢 栽培に関しては2007年から自然栽培に移行したのですが、移行した最初の2年間は急に農薬を減らしてぶどうに耐性ができていなかったために半分くらい腐ってしまったことが大変でした。醸造に関しては自然栽培を始めた頃は天然酵母があまりなかったので発酵が上手くいかないことが大変でした。ワインづくりは思い通りになることはあまりないです。失敗してもう1回やろうとしても年に1回しかワインをつくれないので、また1年間待たなければな

らないし、失敗しても作ったワインを売らなければなりません。失敗した責任は自分で取らなければいけない。すぐに苛立ったりちょっとしたことでぶれたりするとワインづくりは続けられないですね。

佐塚 母屋にあるワイン資料室はどんな思いで作ったのですか？

野沢 資料室は父が作ったんですが、純粋にお客さんに楽しんでもらうためにつくったんだと思います。

渡辺 建物が古民家だったり、それに

合うような作りになっているところにもこだわりがあるんですか？

野沢 母屋はもう築130年くらいの建物なんですが、もともとは牧丘町で養蚕をしていた農家の家を移築しているんです。全くくぎを使っていなくて、総檜づくりなんです。父親の弟が建築士でほかの建物は全部設計してもらったりしています。あとは父親が手作りのものが好きなので、もともとぶどうの貯蔵庫として使われていた地下のワインセラーの入り口とかに立てかけてあるものは全部手彫りで作ったりしていますね。

佐塚 今後の展望について教えてく

ださい。

野沢 自然派という今の方向性でいこうと思っています。ワイナリーを大きくしようとは思わないです。自社畑のぶどうと農家さんから購入するぶどうでワインを作っていくって、もう少し自然栽培など栽培からこだわったワインを増やしたいと思っています。ワインの輸出も行っていて、甲州ワインのみ主にイギリスとフランスに輸出しています。日本にこんな美味しいワインがあるということや世界中でブームの和食に合うワインとして、日本に甲州という品種の美味しいワインがあることをいろいろな人に知ってもらいたいです。外国から日本に来るお客さんも多いので、日本の和食文化の1つとして甲州ワインも知ってもらえたらよいなと思っています。

渡辺 野沢さんの考える甲州市の魅力とは何ですか？

野沢 果樹の町という感じですね。ワイナリーも塩山にも結構ありますし。それにぶどうを作ってそれからワインを作って売って、それで観光客も来てっていうのができるのは他の地域にはなかなか産業としてないですよ。ね。畑から見てもらってワインを楽しんで泊まって行っていただけるようにして、お客さんが長く楽しめる場所に甲州市全体がなっていけばいいなと思います。東京から近いのも売りです。ね。農家の高齢化も問題になっているので、新規就農という形で他県の人に住みたくなるような支援をして、甲州市の魅力をアピールしていければいいなと思います。

氣賀澤 移住希望者へのメッセージをお願いします。

野沢 新しい人が来たらとりあえず一緒にワインを飲みたいですね。ワインって飲むだけでいろんな人とつながりを持てたり、腹を割って話せたりしますし。まずは地元の人と話をする機会があればいいかなと。あと山梨の人って最初はとっつきにくい印象があるかもしれないけど、実際に付き合ってみるとすごく温かい人が多い



ので気軽に来てほしいですね。移住とかを決める前にまず甲州市に来て何日間か過ごしてみて、いろんなところに出かければいろんな人がいるという魅力も感じて移住したくなるんじゃないかと思います。

Editor's note 編集後記

(渡辺) ワイナリーに到着して建物を見た時は、古民家風でとても素敵だなと驚きました。野沢さんが先代からの物を受け継ぎながらも、工夫を凝らしてワインづくりをしていることを感じました。落ち着く空間とおいしいワインで居心地がよく、素敵なワイナリーでした。

(氣賀澤) くらむぼんさんのワインはワイン初心者でもすごくおいしく味わうことができました！県外の人だけでなく山梨の人たちにもぜひ味わって欲しいなと思いました。ワインの製法や伝統も勉強することができとても良い機会になりました。山梨県民としてももっとワインに触れようと思います！

(川崎) ワインのキャプションをみると“木苺、ボンボン飴のような香り”など、ぶどうなのにこんなに香りの幅があって面白いなと思いました。取材チームの中で唯一未成年で飲めなかったのが、成人したらくらむぼんワインの“あじろん”を飲んでみたいです。

(佐塚) ワインセラーや母屋の雰囲気がよく、とても素敵でした。野沢さんのワインに対する真摯な姿勢や想いをお聞きすることができ、充実した時間になりました。野沢さんのこだわりの詰まったくらむぼんのワインはとても飲みやすくおいしかったです。



ありが桃園

手塚優さんは2009年までは甲斐市にある実家で農業を手伝っていました。2011年に塩山でありが桃園の運営を開始しました。農家の長男である手塚さんは農業から離れようと上京したこともありましたが、そのときに改めて山梨の自然豊かな土地や、ぶどうやももなどの地場産業に魅力を感じ、農業を勉強しようと思ったそうです。ももを生産するにあたって、“自分の畑を持つだけではどうにもならない”と一宮のもも農家にノウハウを教わりに行くなど、一から始めました。ありが桃園は減農薬にこだわったももや、大きいももの実が入った桃カレーが評判です。“地域資源を活かし、ビジネスチャンスを見出していきたい”と考え、甲州市の農業の発展に貢献している手塚さん。最近では干し柿の生産にも力を入れているそうです。甲州市で農業をすることや、桃カレーなどの加工食品についてお聞きしました。

新津 ありが桃園の名前の由来について教えてください。

手塚 ありが桃園でももを生産していて、そのももを御中元などで贈り物として送るお客様がいます。そういった方々は、ありがとうの気持ちをももで贈る相手に表現します。僕たちは、贈り主であるお客様の期待を裏切らないような美味しいももをお届けする役割を担っています。先人やもも作りを手伝ってくれた仲間への感謝の気持ちを込めたももを、お客様が感謝の気持ちを込めて贈り物としてももを送る、受け取った側がまた感謝する。そういった感謝の連鎖を大事にし

ていきたい思いがありますね。“ありがとう”という言葉は外国人の方でも知っているようなメジャーなものであり、日本語としても、とても美しいものであるところからこの名前にしました。

新津 ももの減農薬、環境にやさしい農業を始めるようになったきっかけは何ですか？

手塚 農業については、できるのであれば使わない方がいいとシンプルに考えています。少なからず人の体に影響が出る可能性があるものですからね。ももをつくるにも天候に左右されるため、一筋縄ではいきません。その大変な中で、少なからず自然から恩恵を受ける人間であれば、環境に気を遣うのは自然なことだと思います。ももの木も家族のように考えているので、減農薬といっても木が病気で危ないのであれば一時的に化学肥料を与えることもあります。たとえば、無農薬だから病気であっても何もしない、それはまた違うと思うので、自分ができる範囲で環境

に対してできることはやっていきたいと思っていますね。海外で禁止されている農薬はなるべく使わない、除草剤を使わず自力で草を刈る、などですね。

川村 なぜカレーとフルーツを組み合わせようと思ったのですか？

手塚 ジュースや缶詰など色々挑戦したのですが、成功したのがカレーでした。食品会社に行って、カレーを作りたいと言ったものの反応はいまいちで…そこで食品工場の業務終了後にスペースを貸してもらって、自分でカレーを勉強し始めました。成功するまでに何千食も無駄にしましたね。それと同時に進行でジュースや缶詰の試作もしていたのですが、カレーのほうがかんとか形になって、おかげさまで注文も入るようになりました。ラッキーなことに、その時に空前のレトルトカレーブームがきたんですよ。全国各地からご当地レトルトカレーというのが出ていましたね。山梨だと注目されるのは果物で、あまりそういったカレーもなかったので面白がってもらいまし

Reporter's



新津 かな子



雨宮 有世



川村 かな子



川村 春乃



た。葡萄カレーをその後出しまして、お土産屋さんで置かせていただいています。カレーは日本人みんな好きですからね。少しでも山梨の果物に親しんでもらえるような良いきっかけになるのではないかと考えています。

川村 桃カレーはビーフ、葡萄カレーはポークと使用する肉を使い分けていますが、どうしてですか。

手塚 日本人が1番好きなカレーがビーフカレーらしいんです。だから桃はビーフにしています。しかし、桃、葡萄共にポークのほうが相性が良いのではないかとずっと考えていて、試行錯誤を重ねた結果、今年の4月から桃もポークに変えることになりました。全て山梨県産のポークを使います。

川村 最初から最後まですべて自社生産なんですよ。

手塚 桃カレーは一貫して自社生産ですが、葡萄カレーに関してはぶどうを地域の農家さんから買うこともあります。

新津 桃カレーのこだわりはどういったところですか？

手塚 市販のルーは一切使っていません。たまねぎを炒めてスパイスを入れて…そういったところからルーを自分たちで作っています。普通のレトルトカレーだと工場に材料だけ送ってそれを入れてもらって帰ってくるっていうことなんですけど、うちは自社で全部やっているのですのへんは他と違う、こだわりなのかもしれないです。

雨宮 農業をやっていて、良かったことは何ですか。

手塚 毎年、ある方が自分のおばあさんにももを送っていて、そのおばあさんからの手紙に『80年生きてきているけど、こんなに美味しいももを食べたことはない、一番美味しい』と書いてあったことです。農作業を行うなかでどうしても上手くいかず、投げ出した

くなる時もありますが、あのおばあさんが今年も楽しみに待っていると思うともう少し頑張ろうという気持ちになります。また、新しいことに挑戦しているいろんな人に出会う機会が増え、人と話すことで自分の心の整理ができます。様々な刺激を受けたり、人と人とのつながりを通して、前向きな気持ちになります。

雨宮 農業をやっていて、大変なことは何ですか。

手塚 一番は天候の影響を受けることです。独立して畑を始めた年は過去最低の不作でした。霜の影響でもは大打撃を受けました。翌年には大雪が降り、重要な農薬の散布の時期でしたが、独立して2年目ということもあって作業が遅れてしまい、剪定作業がなかなか進みませんでした。2015年にはありえないくらい長雨で、畑を始めて以来、最悪の不作でした。また、暑くなりすぎてももの果肉障害も起こりました。天候の変動はどうしようもなく、安定していいものを作っていくことはなかなか難しいです。

雨宮 手塚さんが感じる甲州市の魅力を教えてください。

手塚 もも、ぶどう、ワイン、などの地場産業があることが魅力です。これだけ豊富なものがある場所は日本中を探してもめずらしいと思います。そのことに可能性を感じて、ここ(甲州市)にいますね。塩山の松里地区は柿が有名です。塩山の柿と他の場所の柿は干しあがったときの肉質が違うと思いますし、勝沼のぶどうも他のぶどうと違うと思います。日中と夜の寒暖差からいいものがとれるでしょう。産業がないと新しく入ってきた人も仕事がないと生活していけないです。桃やぶどう栽培など地元根付き、自然を生かした産業があること

はとても魅力的です。

雨宮 甲州市に住んでもらいたいと思う人はどんな人ですか。

手塚 人も地域も、個性が変わることと違う方向に進んでいける可能性があると思うんですね。僕はここで生まれていないからこそ今の発想ができるんだと思います。甲州市だとももも柿もそうですが、“昔からこうだからこれだ”という考える方が多いんです。移住してくる人は甲州市で生まれ育った人とは違う視点を持っているので、たくさん面白いアイデアを生み出してくれるんじゃないかなと思います。

Editor's note 編集後記

(雨宮) 柿の加工食品化にも取り組んでいるそうで、これからどのように発展していくのかなと今後がとても楽しみだと思いました。私も失敗を恐れず、いろんなことに挑戦していきたいです。

(川崎) 環境に優しい農業は特別に何かする訳ではなく、隣に寒そうな人がいたらカイロをあげるような小さな心遣いなのだと思いました。人間でも植物でも同じように接することは大切ですね。

(川村) 取材後に桃カレーをいただきました。不思議な組み合わせのもとカレーですが、見事にマッチしていました。手塚さんこだわりのカレーをもっと多くの人に知ってもらいたいです。

(新津) 手塚さんのチャレンジ精神とユニークな発想によって、ありが桃園は発展しているのだと思いました。一からもの生産を始めて、現在に至るまで相当の苦労があったにも関わらず、ここまで成功されていることに驚きましたし、私も手塚さんの挑戦する姿勢を見習っていきたいと感じました。



学生がいく！

Let's Go!

ぐるり、甲州旅

恵林寺の歴史

恵林寺は塩山にある臨済宗妙心寺派に属する寺院。元徳2（1330）年、甲斐国の荘園であった牧ノ庄の領主・二階堂出羽守貞藤が夢窓疎石を招き、創建しました。永禄7（1564）年に美濃の快川紹喜和尚が入山し寺勢が高められ、武田晴信（信玄）が自らの菩提寺と定めました。武田氏の滅亡後、天正10（1582）年4月、恵林寺は織田信長の焼き討ちにあい、快川和尚と百人以上と言われている僧侶らとともに火に包まれました。同年6月、徳川家康の手によって復興され、綱吉時代の甲斐国主・柳沢美濃守吉保の庇護により再び発展しました。寺の入り口である赤門（国重要文化財）をくぐると、織田信長の焼き討ちの現場に建つ三門（県重要文化財）とこの門の柱に刻まれる快川和尚の遺偈を拝むことができます。さらに三門の正面には夢窓疎石、快川紹喜、末宗瑞岳の三像が安置されている開山堂（市指定文化財）があります。また、武田信玄公、柳沢吉保公の墓所や、夢窓国師の代表的な築庭庭園である恵林寺庭園なども見学することができます。庭園は国の名勝指定を受け、四季折々に違った情景をみせています。このような歴史情緒あふれる恵林寺へぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。

Reporterは…

6人の学生が甲州市をぐるりと旅して、自分たちで写真を撮って誌面構成も自分たちで考えて作りました！



今回、恵林寺の住職さんである古川周賢さんにお話をうかがいました。

恵林寺での坐禅についての話や、住職さん自身がお考えになる坐禅で大事なことを聞かせていただきました。

恵林寺住職
古川周賢さん

一坐禅会を行う寺院は珍しいと思うのですが、なぜ始めたのですか。

古川 山梨県は人口比にしては比較的多いです。笛吹の楽音寺、甲府の円満寺や円光院で坐禅会を開催しています。なかでも円光院はこの恵林寺よりも坐禅会の歴史が古く、山梨県の中で一番伝統あると思います。恐らく20年以上やっているのではないで

しょうか。ここ（恵林寺）は元々武田信玄の菩提寺で、住職に老師になる格の高いお寺なのですが、「なぜ円光院はやるのにここでは坐禅しないのか」ということで坐禅会を行うようになりました。

一恵林寺は何年前から坐禅会をやっているのですか。

古川 形だけだったら20～30年前からありましたが、その頃はやっていてもほとんど人が集まらないし、いい加減なものでした。ちゃん

と広報してやり始めたのは14、5年前です。

一私たちが坐禅した時、30人弱の人がいましたが、いつもそれくらいです。

古川 そうですね。いつもだいたい25～35人の間くらいです。ちゃんとやり始めてからは20人弱くらいでした。去年あたりからマインドフルネスという禅ブームで人が増え始めましたね。だから、元々はテレビに出演する時以外は本堂の半分で足りていたのですが、去年の6月辺りからもう半分使い始めました。最近は坐禅後の講座も増えてきています。

一坐禅で大事なことは何ですか。

古川 自分を捨てていくことです。最近注目されるようになったマインドフルネスは「記憶力が上がる」「免疫力が高まる」などと自分に加えていくものですが、坐禅は反対で自分にあるものをどんどん捨てていくんです。私たちは生きていく中で色々な経験をしていきます。そうすると、周りの出来事や人に対してパターン化したり、最初から決めつけてしまうことも増えていきます。しかしそれは物事や人を色眼鏡でみてしまったり、広い視野を失ってしまうことにつながります。坐禅をすることで自然と一体になると、そういった考えが捨てられ、色眼鏡が外れていきます。坐禅はそういった自分を捨てていくことが大事なのです。



学生の坐禅体験記

○渡辺：坐禅体験は初めての人が多いと思いますが、始まる前の心境を教えてください。

丸山：坐禅自体が初体験だったのでイメージがなかなかできなかったのですが、不安と緊張とわくわくする気持ちでいっぱいでした。精神統一をする良い機会だと思い、ピンバシ叩いてもらって気持ちをすっきりさせたい！と思って臨みました。

有馬：私は緊張と自分の心の中がどれくらいすっきりするかという期待でいっぱいでした。坐禅体験はこれで2回目だったのですが、宗派が違っても作法も異なると聞いていたので、その違いも楽しみな



がら体験していきたいと思って挑みました。

鶴田：早朝5時30分に着いたのでとても寒く、辺りが真っ暗で怖かったです。でも、満点の星空が広がっていて今まで見た中で一番綺麗でした。最初は坐禅は「こわい」「痛い」ものと思い描いていました。お寺の荘厳な空気感から緊張もしていました。しかし実際に行ってみると20～30人ほどの方がいらしゃり、意外と身近なものなのだと思います。初心者でも事前指導という形で、坐禅の作法を優しく教えて下さったので安心してできました。

青山：とにかくドキドキしました。説明の中での自分というものを考えずに自然のなかに溶け込む、という言葉が印象に残っていました。その通りにやってみようと、意気込む気持ちもありました。

○渡辺：では実際に坐禅体験が始まってどうでしたか。

望月：最初に和尚さんから「自然と一体になる」「考えを捨てていく」「ゆっくりと数を数える」ことを教わりました。しかし、やはり色々なことを考えます。今日のこの後のスケジュール、自分の気になっていること、頭の中に沢山の考えが浮かびます。1から10までの数字がなかなか数えられませんでした。

丸山：防寒をしていったつもりが想像以上に寒く、とにかく寒いな

あ…と思いながら坐禅をしていました。自分のことを考えてはいけませんが、気を抜くとどうしても「寒い」とか「足が痛い」という気持ちになってしまいました(笑)。

有馬：私は形から入るタイプなので作法は完璧にできましたが、実際の心の中は「寒い」「靴下履きたい！」だとか、「せっかくだから肩叩いてもらおう」だとか邪念だらけでした。

鶴田：自分を「無」にするのはとても難しかったです。私の目の前に有馬さんが座っていたのですが「有馬さん、棒で叩かれているな」「取材失敗したらどうしよう」というような考え事が次々に…。勇気を振り絞ってけいさくで叩かれると、驚いたことに叩かれても全然痛くありませんでした。両肩を2回ずつ叩かれると、心の中にある不安などの悪いものが吐き出されるような、取り除かれるような感覚ですっきりしました。

青山：無になろうとすればするほど「寒い」「足が痛い」「いつまでやるのかな」などと色々な考えが頭を駆け巡りました。そんなことを考えてしまった、と気がついては肩を叩いてもらっていました。

○渡辺：体験を終えて、気持ちの変化や感じたことはありませんか。

丸山：緊張と寒さから解放され、やり遂げた！という達成感が大きかったです。初めての体験でしたが、本当に寒く、冬の間は寒さに耐えることも修行の一環だなと感じました(笑)。一回の体験では正直、気持ちや考えが変わるというところまではいかなかったので、慣れ

るまでには時間が必要だと思いました。余計なことを考えないよう防寒対策を整えて、もう一度体験に行きたいです。

鶴田：坐禅は誰でもでき、お寺での坐禅体験はあくまでもきっかけにすぎず、本当はどこでもできるということが今回行って分かりました。2度目、3度目と時間があればまた足を運びたいと思います。

有馬：お寺に行って大勢の人の中で体験も好きですが、どうしても緊張してしまうので、自分の家でセルフ坐禅をやってみようかと思っています。

望月：他にやらなければならないことを考えず、ただ数字を数える」という時間は日常の中で無いことに気づきました。これに気づいた時、少しこの時間の大切さに気付いたような気がしました。今回の坐禅はここまでの段階で終わってしまったので、次回はもっと考えていることを捨てられるようにしていきたいです。

青山：正直な感想は、「やっとこの寒さと痛さから解放される…。」でした。結局自分のことをずっと考えてしまったなあという感じでした。ですが、自分のことを考えつつも時折近くの滝の音に耳を傾けることはできました。そういうちょっとした積み重ねが坐禅なのかなと思いました。

恵林寺坐禅会

日時：第1、第3土曜日は、坐禅会後「講座」（一時間程度。講本『臨済録』、講本は会場準備します）。
最終土曜日は、坐禅会後「掃除会（作務：さむ、労働修行：体験会）」（1時間程度、準備不要）。それ以外の土曜日は、坐禅会後「茶礼会（さらいかい）」（一時間程度、質問等も受け付ける茶話会）を、それぞれ開催しています。
午前6:00～午前7:00まで
会場：恵林寺本堂 参加費：無料

恵林寺日曜坐禅会 日時：毎月第2日曜日 午後3:00から4:00まで 会場：恵林寺本堂 参加費：無料

※誰でも気軽に参加可能。自分が叩いてほしい時に合掌をすると叩いてくれる仕組みなので、初めての方でも安心です。なお、その他にも、学生や社会人の「坐禅体験会」も募集中。

恵林寺

山梨県甲州市塩山小屋敷2280
拝観時間 8:30～16:30 年中無休
（宝物館は、12月～3月の間は毎週木曜日が閉館）
TEL：0553-33-3011
http://erinji.jp/

KoshuLife News

イベントや新しいお店、施設情報など、甲州市の最新ニュースを甲州らいふ目線でお届けします！



塩ノ山ワインフェス

甲州市の塩山エリアにあるワイナリーが参加(機山洋酒、奥野田葡萄酒、甲斐ワイナリー、塩山洋酒、牛奥第一葡萄酒、五味葡萄酒、Kisvin Winery)。ワインはもちろん地元の店舗による料理、ライブの開催などが予定されています。

日程：4月15日(雨天決行) 場所：甲州中央防災広場「塩むすび」
時間：10:00～17:00 チケット：入場2,000円

ワインツーリズムやまなし

一般社団法人ワインツーリズム主催のワインイベントです。イベントにお申込を頂くと「ワイナリー資料」や「簡易マップ&バス時刻表」「バスチケット」などが届きますので、事前に自由に旅の計画を立てることができます。

日程：5月20日土曜日(勝沼のみ)、11月11日土曜日(予定)
場所：甲州市内のワイナリー
<http://yamanashiwine.com>



甲州フルーツマラソン大会

秋まっさかりの甲州市を舞台に開催する「甲州フルーツマラソン大会」は、親子で仲良く走るファミリーコース(3.5km)。紅葉に染まるぶどう畑の中を走るぶどう郷コース(10km)とフルーツラインコース(ハーフ)は、甲府盆地から南アルプス連峰が一望できる感激の大パノラマ。大菩薩コース(23km)は最難関コースで、有名な箱根山登りをも凌ぎます。

日程：10月第3日曜日(雨天決行) 場所：甲州市勝沼中央公園
時間：9:30～(レース開始) <http://www.koshu-fruit-marathon.jp/>

甲州市お試し移住施設

甲州市への移住をご検討いただいている方を対象に、1週間を目安に甲州市での生活を体験できる「お試し移住施設」をご用意しています。この施設を拠点に、甲州市での日常生活を体験してください。空き家バンク登録物件を改修した戸建て住宅タイプⅠ棟と、市営住宅のⅠ室を利用した集合住宅タイプⅠ室がございます。詳しくは、甲州市役所政策秘書課までお問い合わせください。

甲州市内の朝市

場内の雰囲気がとても心地いい朝市です。是非、足を運んでみて下さい。

かつぬま朝市

日程：毎月第1日曜日(1月は除く)
時間：9:00～12:00
場所：シャトレゼ勝沼ワイナリー東
<http://katsunumaasaichi.com/>

塩山朝市

日程：毎月第3日曜日
時間：9:00～12:00
場所：およっちょいプラザ
<https://enzan-asaiichi.jimdo.com/>

つぐら市

日程：詳細は、ホームページをご覧ください。
時間：10:00～15:00
場所：つぐら舎
<http://ameblo.jp/yamanekineko/>

前号の vol.4 で行ったアンケートへのたくさんのご協力ありがとうございました。『甲州らいふ』は若い世代の視点で甲州市の魅力が紹介されていて面白い「フリーペーパーとは思えないクオリティ」「甲州らいふには今まで知らなかったお店などの情報も多く、それが対談形式で紹介されているから楽しく読めた」などのお褒めの言葉をいただきました。アンケートでは**甲州らいふを読んで甲州市に来た人が 63.6%** いるということがわかりました。お答えいただいたアンケートの結果はこれからより良い甲州らいふを制作するための材料とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。



甲州らいふ vol.04 Present!! 当選者発表!

プレゼントに当選された方には2月中旬到着で賞品を発送しました。当選された方のイニシャルを発表いたします。

Aコース：甲州市推奨ワイン白赤セット
R.S 様 R.A 様 N.S 様

Bコース：甲州ぶどうジュース
T.K 様 Y.T 様 K.K 様

Cコース：手づくりフルーツジャムセット
C.K 様 Y.K 様 R.M 様

これで安心、解決！ 甲州市の移住に関する何でも相談。まずはチェック！ 教えて！甲州らいふ。

甲州市で暮らしてみたいけど、わからないことがたくさん。そんな疑問や、子育てのこと、住む場所の探し方など、甲州市に住む(甲州らいふ)ための情報をお届けします。

実際に移住を検討されている方からよく聞かれる質問にお応えします。

Q. 現在子育て中です。甲州市には、どんな子育てサービスがありますか？

A. 甲州市には、安心して妊娠・出産・子育てができる充実した母子保健・子育て支援の体制が整っています。主な子育て支援は次のとおりです。

- 妊産婦新生児訪問事業**…妊娠中2回、新生児期に2回、2ヶ月児に1回、保健師と助産師の訪問が受けられます。
- ママの安心テレホン**…妊婦さんや産後ママの不安解消のため、電話相談ができます。
- マタニティークラス**…妊娠や出産についての詳しい知識やお産のためのコツ、育児情報や実技指導などを実施しています。
- 産前・産後ママのほっとスペース**…妊婦さんや産後のママが赤ちゃんと一緒に気軽に立ち寄り、助産師や保健師の専門相談も受けられます。
- 乳幼児検診**…3ヶ月、7ヶ月、1歳6ヶ月、3歳、5歳児を対象とした健診や2歳児親子歯科検診を実施しています。
- 育児学級**…育児の知識や制度の学習、育児相談、仲間づくりの場を提供しています。

Q. 田舎暮らしをしたいと思ったら、まず何をしたらいいでしょうか？

A. 何を目的に移住するか、仕事や移動はどうするかなど、まずは自分がどんな生活をしたいかイメージしてみてください。その生活がこの地域で実現できるかどうかを考えてみてください。

Q. 交通機関はどのようなものがありますか？マイカーは必要ですか？

A. 市民バスを運行していますが、本数に限りがあります。事前に電話予約して利用するデマンドバス(塩山地域のみ運行)もありますが、マイカーがあれば移動の融通はしやすくなります。

Q. 地域になじむにはどうしたらいいですか？

A. 引っ越してきた自分が新参者という意識を持ちつつも、地域の住民に対して壁を作らずに接していくことが大切です。また、地域の行事に積極的に参加することで、住民と接する機会が増えてつながりが強まります。

Q. どのような気候ですか？

A. 夏は暑く、冬は寒いなど盆地特有の寒暖の差が大きいです。このため、ぶどうなど果樹栽培が盛んになっています。年間の降水量は少ないのですが、夏から秋にかけて集中豪雨が発生することもあります。

Q. 買い物ができる場所はどれくらいありますか？

A. 各地域にスーパーマーケットやコンビニエンスストアが点在しています。洋服や電化製品などは、地域によって店まで、やや長距離の移動を要することがあります。

Q. 住宅や土地を探すためのよい方法がありますか？

A. 不動産会社にご相談ください。その他、甲州市では空き家バンクを実施していますので、空き家バンクに登録されている物件にご希望のものがあれば、宅建協会が仲介の上、交渉することができます。

Q. 農業を始めたい場合、まず何をすればいいでしょうか？

A. 甲州市では就農定着支援制度推進事業を実施しています。優れた技術を持つ農業者(アグリマスター認定者)の指導の下で、就農に必要な実践的な技術を習得するのを支援するもので、毎年研修生を募集しています。その他、農地の賃借や就農に関することは、市役所もしくはJAフルーツ山梨(農協)にお問い合わせください。



知ってて
安心、充実の
自治体サービス

甲州市の支援制度

移住を考えたとき、思いつくのが「自治体の支援サービス」です。住宅の購入やリフォームはもとより、子育て、福祉など、甲州市では定住・移住に関する様々な支援制度があります。甲州市に移住を考える方は、ぜひご覧ください。

子育て

産前産後

- 妊産婦・新生児訪問指導
- ママのあんしんテレフォン
- 妊婦健診の助成 ●マタニティークラス
- 産前・産後のママのほっとスペース
- ファミリーサポート制度

助成制度

- 児童手当 ●子ども医療費助成制度



甲州市住宅リフォーム

市民の居住環境の向上を図るとともに、本市の経済の活性化に役立てるために、市内の施工業者により行う住宅リフォーム工事費の一部を補助します。

対象住宅の増築、一部改築、改修、修繕、模様替え、設備工事等の対象工事費が20万円以上(消費税含む)のリフォームで、市内の事業所によりリフォームを行う工事。

- リフォーム補助…最高限度額10万円(工事費1割)
- 木造住宅耐震リフォーム補助…最高限度額20万円(工事費の1割)
- 空き家住宅リフォーム補助…最高限度額20万円(工事費の2割)

※補助金額は、千円未満の端数は切り捨てとなります。

住

まずは
住む場所を
チェック!

空き家バンク制度



市では、賃貸もしくは売却を希望する空き家の所有者(建物の有効活用)と、田舎暮らしを希望するみなさんが出会えるよう、建物の有効活用と定住促進を目的に空き家の情報提供と移住希望者への情報発信をする、空き家バンク制度を設けています。

空き家バンクの制度概要図



【空き家バンクについてのお問い合わせ先】

甲州市役所 ☎ 0553-32-2111 Mail: akiya-bank@city.koshu.lg.jp

甲州市ホームページ内 特設ページ「空き家バンク」もご覧ください。

アドレス(甲州市 HP) <http://www.city.koshu.yamanashi.jp/>



働く

就農定着支援制度(アグリマスター制度)

市では、就農を希望する方への農業技術の習得等を支援するため、優れた技術を持つ農業者(アグリマスター)の指導の下で、就農に必要な実践的な技術を習得する長期研修の支援制度を実施しています。

●支援内容

- ①栽培技術の習得研修 ②農業経営管理手法の習得研修 ③農作物の流通・販売に関する研修
- ④その他研修生の自立に認められる研修など ※研修期間中の研修手当として、1ヶ月あたり5万円を支給します。

空き店舗

市では、商店街の活性化と活力あるまちづくりのため空き店舗を利用した新規事業者に補助金を交付します。なお、事前に認定を受ける必要があります。

甲州市の概要 -Summary-

- 人口 32,769人(平成29年3月1日現在)
- 面積 264.01平方キロメートル
- 年間平均気温 13.7度(勝沼地点/平成24年記録/気象庁発表)
- 教育環境 保育所・保育園・認定こども園・小学校・中学校・高校・短期大学
- 鉄道(JR中央線) 甲斐大和駅/勝沼ぶどう郷駅/塩山駅
- 自動車 中央自動車道・勝沼IC
- バス 新宿から甲州市への高速バスが運行。

甲州市の施設 -Facility-

- 公立保育所 4ヶ所
- 市立保育園 8ヶ所
- 認定こども園 1ヶ所
- 児童クラブ 14ヶ所
- 市立小学校 13校
- 市立中学校 5校
- 県立高校 1校
- 県立短期大学 1校
- 病院・診療所等 32ヶ所
- 図書館 4ヶ所





塩山

- ① 藤本道祖神 太鼓祭り
- ② 毎年1月14日
- ③ 放光寺

- ① 甲州市えんぜん桃源郷 ひな祭りと桃の花まつり
- ② 毎年2月11日

- ③ 重用文化財 旧高野家住宅「甘草屋敷」
- ・ 武田信玄公宝物館 (恵林寺境内)
- ・ 宮光園
- ※その他市内各戸で展示されています

- ① 恵林寺 信玄公忌
- ② 毎年4月12日
- ③ 恵林寺

- ① 向嶽寺 秋葉さん祭り
- ② 毎年4月18日
- ③ 向嶽寺

- ① 大黒天祭り
- ② 毎年4月29日
- ③ 放光寺

- ① 永楽祭り
- ② 毎年6月30日
- ③ 菅田天神社

- ① およちよい祭り
- ② 毎年10月最終日曜日 (平成29年は10月29日)
- ③ 塩山内各地

勝沼

- ① 藤切り祭
- ② 毎年5月8日
- ③ 大蔵寺

- ① 甲州市かづねまぶどうまつり
- ② 毎年10月第1土曜日 (平成29年は10月7日)
- ③ 勝沼中央公園

大和

- ① 田野十二神祭
- ② 毎年1月第2土曜日
- ③ 田野1地区の公民館

- ① 甲州市ふるさと武田勝頼公まつり
- ② 平成29年4月23日
- ③ 大和中学校

甲州市では季節ごとに様々なお祭りが開催されています。中には歴史あるお祭りもあります。ぜひ足を運んでみてください！甲州市の人たちと一緒に盛り上がりましょう！

鉄道

市内には、甲斐大和駅、勝沼ぶどう郷駅、塩山駅と3つのJR中央本線の駅があります。新宿から特急で約90分の距離にある塩山駅には上下線合計で約30本の特急が停車し、行楽シーズンには勝沼ぶどう郷駅にも特急が停車します。年間では約100万人の方が駅を利用されるほど市民はもとより、観光客にとっても重要な交通機関です。

中央自動車道・国道など

甲州市内には、南部を通過する国道20号、中央部を横断する国道411号、北西部を通過する国道140号など基幹道路があり、首都圏を結ぶ中央自動車道(勝沼IC)があります。また、勝沼ICと各基幹道路を結ぶ「フルーツライン」は、眺望にも恵まれていることから観光客など多くの方々に利用されています。

約90分。都心から

四季で様々な表情を持つ山梨県甲州市へ。

「甲州らいふ」つたえ隊」が取材中にふと見つけた魅力 Photo DIARY

それぞれの目線で撮る甲州市の人、場所、もの。



あかりをつけましょぼんぼりに

川崎かな子

塩山駅北口すぐにある甘草屋敷に期間限定で展示されている雛人形です。部屋中にたくさんあるので圧巻です(ちょっと視線を感じて怖い気も...)。つるし飾りも種類が豊富で素敵でした！



アドバイス猫

望月勝太

とても緊張した取材の後、たまたま入ったトイレで見つけました。取材前に見たかったです。



大塚郁弥



夕暮れどきに

取材帰りに撮影。甲州市は見晴らしが良い高台が多いので街を一望できて、夕暮れどきがとてもキレイです。



つるしびな

青山柚葉

ひとつひとつの飾りに意味があるのだそうです。小さいものがたくさんつらなっていて、かわいかったです。



土屋玲乃



勝沼ぶどう郷の帰り道

取材の帰りに見えた景色です。あまりに綺麗な空だったので、思わず「バシャリ」と写真に収めてしまいました。見ていると、なんとなく元気をもらえる気がします。



坐禅会後お寺の敷地内を散歩

有馬梨香

朝5時半に到着したときは真っ暗で何も見えなかったのですが、坐禅会終了後は日も昇ってボカボカ陽気の中見学することができました！



川村春乃



ゆったりまったり

前号のつぐら市で取材させていただいた Salzberg Coffee に行ってきました。塩山駅から歩いて行ける距離で、落ち着いた雰囲気のお店です。とても美味しいガトーンショコラをいただきました！



あっ！こんなところに！！



新津カンナ

塩山の街を歩いていた時に、ふと見つけたマンホール。細部にまでこだわったデザインに思わず記念撮影！



鶴田有紀



恵林寺の取材終わりにぶらっとお土産屋さんへ立ち寄りしました。店頭には瓦せんべいがあり、絵柄をよく見てみると、なんと武田信玄！驚きと少しの空腹感につられ、ついつい買っちゃいました(笑) 私はね出しの大きいサイズの方がお買い得で、家族みんなで食べました。皆さんもたまには寄り道してみませんか？



空にのびる木



雨宮育世

今は何もない木だけれど、暖かくなるにつれて、実をつけていく。その実がたくさんの人に笑顔や幸せを届けて欲しい。



渡辺智実



一目惚れ

くらもぼんワインでデザインに惹かれて購入しました。家で食事と一緒に美味しくいただきました。自分で買った初めてのワインです。



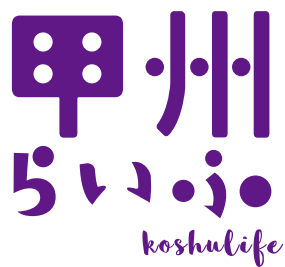
綺麗な景色と美味しい料理



氣質澤望

パパンロッテさんでランチをいただいた席からの眺めが最高でした！今の時期でもこんなにきれいだから、きつぷどうの葉が生い茂っている時期はもっともっと素敵な景色なんだろうなと思います。おいしいフランス料理とそれにぴったり合ったワインを四季折々の景色を楽しめるので、また違う季節に友人や家族とお邪魔したいなと思いました！

甲州市の人や暮らしを伝える



ご自由にお持ちください

TAKE FREE

甲州らいふ Vol.05 発行日：2017年3月24日

発行元：山梨県甲州市役所 政策秘書課 制作／取材／編集チーム：山梨県立大学 デザイン／写真／取材補助：BEEK DESIGN

【お問い合わせ】山梨県甲州市役所 政策秘書課 ☎ 0553-32-2111 (代) <https://www.facebook.com/koshulife>